

厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)
(分担)研究報告書

災害時における適切な抗凝固療法に関する研究

研究分担者 末田大輔 熊本大学循環器内科

災害時の抗凝固療法に関して文献的調査を行った。
詳細は添付のPDFを参照。

熊本大学循環器内科特任助教

A. 研究目的

エコノミークラス症候群などの静脈血栓塞栓症には、抗凝固療法が必要である。緊急災害ではもとも、抗凝固療法加療中の避難者と、避難所、避難中に心房細動、静脈血栓塞栓症等で抗凝固療法の必要性が生じることもある。災害時の抗凝固療法についての文献的調査を目的とする。

B. 研究方法

避難所で問診を行い深部静脈血栓症ハイリスク避難者に対し下肢静脈エコーを行い、血栓有りなら、血中D-ダイマー測定、高値であれば基幹病院に紹介した。

(倫理面への配慮)

文献的調査であり、該当しない。

C. 研究結果

最近、抗凝固療法において、NOAC, DOAC(novel oral anticoagulants, Non-vitamin K antagonist oral anticoagulants, direct oral anticoagulant)が頻用されている。以前は、経口抗凝固薬はワルファリンのみ上市されていたものの、個人差が大きく、血液検査が必要なこと、薬物相互作用、食事制限があることから、使用しづらさはいなめない。しかし、最近ワルファリン作用の迅速検査キットが使用可能である。

D. 考察

弁膜症性心房細動、腎機能低下、超高齢者、ワルファリンコントロールがすでに良好である症例においては、災害時であっても、ワルファリンの必要な症例が少なからず存在する。

E. 結論

災害時の避難所において適切な抗凝固療法は必須である。ワルファリン内服患者も少なからず存在し、簡便な検査で安全に内服継続可能である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Daisuke Sueta, Seiji Hokimoto, et al.
Venous Thromboembolism Due to Oral Contraceptive Intake and Spending Nights in a Vehicle -
A Case from the 2016 Kumamoto Earthquakes- Intern Med 2017; 56:409-412

2. 学会発表

『熊本地震シンポジウム2017』シンポジウム
震災時の災害関連疾患とその対策
肺塞栓 発表 末田大輔
『熊本地震シンポジウム2017』シンポジウム
震災時における適切な抗血栓療法とは
発表 末田大輔

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし